

ご家族の皆様へ

6月「なんでもおしゃべり会」のお知らせ

今年度より開催することになった「なんでもおしゃべり会」。先月は、昨年度新規契約をされた方やこれから利用を検討しているという方がご参加くださいました。人数は少なめでしたが、その分ゆっくりと話ができ、「せっかくの機会だし♪」ということで、生活介護事業所や短期入所を見学したりもしました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

6月の「おしゃべり会」もテーマは設けずフリー参加の形にしたいと思いますが、6月は片桐事業部長も参加予定。放課後等デイサービスのこと、成年後見のこと、サービスのこと。ぜひ情報交換してください。

日時：6月18日(木) 午前 9:30~12:00
場所：りとるの家 はなれ 市民交流スペース

皆様のご参加お待ちしております



リレーエッセイ

お楽しみ『リレーエッセイ』第2弾！
りとる職員が思い思いのことを書きます。
普段は見えない職員の「新たな一面」がのぞける社外社内とも人気のコーナー♪

今回は、にこの笠原と、はなれ副所長の久保です。

「ピーター」

上越へ勤務を始めた2年前の冬「おまんたピーター使えるかね？」と暗号とも思える言葉に頭の中に???が、地元柏崎から上越に勤務をして初めて感じた



「言葉の違い」だったことを鮮明に覚えています。しかし、早いもので3年目を迎えた今、上越市の色々な方々と接する機会に恵まれ、名前を呼ばれる事も増えました。会話の中で「おまんた」はまだ出ませんが「ピーター」は自然に出るようになりました。

出会いと時間のお陰で、地域の特色や風土も少しずつ学ぶことができ、地域を知る、生活を知るとはこういうことかと実感しています。コミュニティーにはその地域の「季語」も大切な要素な



んだと思います。上越の季語「ピーター」私のお気に入りです。

にこ 笠原洋紀

「長生きしなきゃ！」人生で初めて
そう思ったのが、息子を産んだ2年前。
タイで働いていた際も、「やりたいことを
やって、もし何かあっても本望」位に思っ
ていました。つまり自分の命は自分だけのものと勘違い
していたのです。それが、息子という宝物を授かってから、
「この子を置いて死ねない」と思い、「守る者」ができて初
めて今までは「守られる者」だったのだとわかりました。



悲しいことですが、私は2度の流産を経験し、そこで命
がどれほど尊く奇跡的なものであるかを痛感するとともに
生まれた命がどれほど愛おしいものかも感じています。

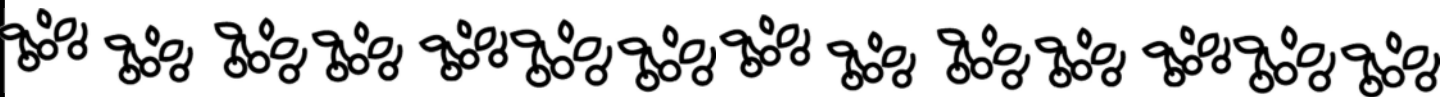
現在は、息子も保育園にお世話にな
り、初めて利用者側になってサービ
スのありがたさや、その先生の表情や言
動が親にはどれほど大切かを感じる毎
日。まだまだ新米ママですが、感じる
ことを大切に、毎日家事に育児に仕事
にガンバリます!!!!



現在、息子が保育園にお世話にな
り、初めて利用者側になってサービ
スのありがたさや、その先生の表情や言
動が親にはどれほど大切かを感じる毎
日。まだまだ新米ママですが、感じる
ことを大切に、毎日家事に育児に仕事
にガンバリます!!!!

りとるの家はなれ 副所長 久保久美子

来月号は、「安心コールセンター」松田と「生
活介護事業所きら」山岸です。お楽しみに!!

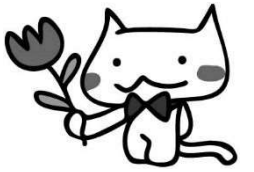


発行者：社会福祉法人みんなでいきる 障害福祉事業部りとるらら通信
通信に関するお問い合わせ先：事業部代表 TEL025-542-0170 (担当：久保)

りとるらら通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらら
発行日：2015年5月

ゴールデンウィークもあっという間に終わった5月。皆様はいかがお過ごしでしょうか？
最近、一気に「夏か??」と思うような暑い時間帯もあれば、夕方は寒くなってみたりして、体温調が難しい日も出てきております。りとるの利用者様でも、まだ時折インフルエンザの発症が見られておりますし、上越市内でもまだ出ているそうですので、皆様も体調管理にお気を付け下さいね。



りとる事業所紹介★パート1

放課後等デイサービス事業所「ららん」

先月号では、りとるらら各事業の重点目標を発表させていただきました。りとるららも NPO 時代から数えると、早10年。りとるの各事業を御存じの方もいれば、最近新たに御契約をいただいた方などはご利用のサービス以外はあまりよく知らないという方も多いかもかもしれません。そこで、今月よりりとる各事業をちょこっとご紹介します。第1弾は、歴史長き場所でもある「放課後等デイサービス事業所ららん」です!!

昔のことになりますが、大貫の一軒家から始まった「ららん」。当時は、“森の中の古民家”で、アットホームな雰囲気が売りでしたが、その分、建物としてのハード面は古い状態で、段差も多い場所でした。2年前に「りとるの家はなれ」が新築され、そこで今まで足りなかったハード面を建築段階から取り入れたのが「ららん」です。

見に来られたことのある方はご存じだと思いますが、現在のららんは個室スペースが確保され、様々な構造の配慮がされております。障害特性がそれぞれなのはもちろんですが、それよりも小学生から高校生という幅広い年代が一緒に時間帯を過ごすのですから、やはり趣味嗜好も異なりその過ごし方も人それぞれ。友達と楽しく笑い合いたいときもあれば、ひとり静かにのんびりしたいときもありますよね。そこで個室を確保し、一部屋は身体的な障害をお持ちの方が安心してのんびり横になれるスペースとして活用し、もう一部屋は音の遮断やご利用者様同士の利用の様子によって個別対応できる部屋として活用しています。また、構造的には



「スイッチカバー」などもつけております。「こんなの自宅ではできないから非日常でしょ?」と思われる方もいらっしゃるかも知れませんが、ご利用者の方によってはその物自体が刺激になってしまい、目に見えることで本来実施したい活動に取り組みにくくなってしまったり、そういった方にもらんでの過ごしをより豊かにしていただきたいという想いから、必要に応じてカバーをしたり外したりしています。



また、活動内容としては、平日は室内で過ごすことをメインに、土日には活動プログラムを入れて社会参加経験を増やせるよう取り組んでいます。

特に日曜の活動では、「季節」や「地域」を重点に置き、活動内容を決めています。4月には高田公園のお花見へ、先日は大潟区にあるいちご園へいちご狩りに行ってきました。やはり外出活動は、参加される皆さんとても楽しみにしていて、毎回素敵な表情が見られます。また、参加の際には、大学生のボランティアさんにも来ていただき、出会いの機会にもなっています。その様子は、ブログ等でぜひご覧くださいね。





「サクス レルヒの森」 いよいよオープン！！

社会福祉法人みんなできるとして、皆様にお知らせです。前年度より建設を進めておりました「特別養護老人ホーム サクスレルヒの森」が、平成27年6月8日に晴れてオープンすることとなりました！！

この「サクス レルヒの森」が建設された場所は、なんと懐かしいあの大貴の交差点エリア。NPO 時代のりとらいふも、この地域の皆様には大変お世話になりましたし、事業開始当初の様々なことがあった思い出の土地です。そこに今度高齢福祉部の建物が建設され、本当に縁を感じます。特別養護老人ホームということで、りとらいふご利用の皆様には関係がないように思われるかもしれませんが、現在内部ではいろいろな今後の取り組みを模索中なのです。例えば、「放課後等デイサービス事業所ここ」は立地的にも目と鼻の先ですので、お散歩がてら何か交流をとか、事業所外活動として「レルヒの森」の中でお仕事体験できないかな？なんて考えてみたり。

「生活介護事業所きら」では、はなれでの清掃作業を発展し「レルヒの森」の清掃ができないだろうか？なんて考えてみたり。まだまだ実現までは程遠く検討段階ではありますが、新たな場所をひとつの資源にしてより充実したサービス展開ができればいいなと思っております。

下記日程にて一般向け内覧会を行います。ぜひ足をお運びください。

特別養護老人ホーム「サクス レルヒの森」

住所：上越市大貴2丁目16番23号

**一般向け内覧会 6月6日(土)13時～16時
7日(日)10時～16時**



～社会福祉士実習生受け入れについて～

平成27年度より、新たな取り組みとして福祉大学実習生の受け入れを行います。大学等で福祉について学び、「介護福祉士」や「社会福祉士」として将来を考える学生は、社会福祉施設での実習が必要となります。その施設として私ども法人も受け入れ実施を決定致しました。

今期は、既に5月25日より1名受入を開始します。今回は他県の大学より受入ますが、今後は県内の諸大学からも受け入れを実施し、福祉で生きたい若者を少しでも活気づけら



れればと思います。実習に際し、各サービスの現場はもちろん、ケース会議にも同席することがあるかと思いますが、その際にはご理解の程お願い致します。ご質問等ありましたら、今期実習担当者丸田までどうぞ。

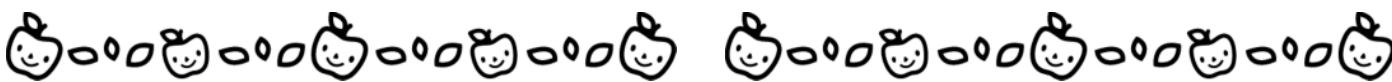
☆「リーダー研修」をしました☆

今回は、りとらいふの中の研修を紹介！！

5月の研修は、「リーダー研修」と題して、内部でのサービス現場責任者向け研修を2回

実施しました。1回目は、片桐事業部長とはなれ丸田所長が講師として「組織論」や「自己マネジメント」を学び、2回目はりとるの家金子所長とはなれ久保副所長が講師として「これまでの自己実践例」を学び話しをしました。

以前、虐待防止研修で「虐待のリスクは職員同士の関係の円滑さによる」という話を聞きました。とても重要なポイントだと思います。良い支援のために、チームをどう指導しどう任せるか、そのために自分はどうあるべきか。たった数時間の研修でしたが、有効な時間を過ごすことができました。今後も様々な研修についてご報告しますので、お楽しみに♪



コラム：福祉の現場で働く皆さんには「幸せに生きる義務」がある

社会福祉法人みんなできるとして 副理事長 片桐公彦

この仕事をはじめ、途中で別の仕事もしていた時期がありましたが通算すると16年ほどになりました。もちろんもう「新人」ではなく「ベテラン」と呼ばれる年齢にもなりました。(この春に40歳になりました！)立场上、新人職員にレクチャーをしたり、講演でお話しさせていただくような機会をいただくようにもなりました。その中で私が繰り返しお伝えしているのが「福祉の現場で働く皆さんには《幸せ生きる義務》がある」ということです。今回はそのことについて書いてみたいと思います。

全ての日本国民には憲法13条で「幸福追求権」が保証されています。平成12年の介護保険制度の開始に伴い福祉サービスは「選べるもの」になりました。選べることで介護の質は向上し、サービスは充足するようになりました。NPO法人、株式会社の参入も進み、多様な風景が広がっていきました。それまでの「措置制度」による福祉では「選ぶ」という考えはなく、支援を必要とする方々は「行政処分」という名でその処遇がご本人に意思とは関係なく決定されていました。またその処遇内容も決して充実したものではなく「最低限の暮らし」を保証するものに過ぎなかったと思います。現代の福祉サービスが「憲法13条の福祉」とするならばそれ以前は「憲法25条(すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する)の福祉」だったといえるでしょう。その中で我々の仕事に求められる風景もずいぶん変わってきました。単なる「介護」だけではなく仕事の内容はまさに「その方が望む最大限の幸せのカタチ」を支えることに価値観が移り変わってきました。

この仕事は誰かに関わり、心と心を通わせながらその営みを支えてく仕事だと思っています。専門性を発揮しつつ、日々日常の営みに向き合っていくには、この時代の福祉の流れが変化したように、現場に立つ私たちは自分の暮らしにも「最大の幸福」を追求する必要があると思っています。きちんとした食事を食べ、お互いが必要とされるような素敵な恋をきちんとして、息を呑むような美しい風景に感動し、涙に暮れる映画に心を突き動かされ、その余韻がいつまでも残るような小説や物語に胸を震わせ、愛し愛されるとはどういうことかを日々の暮らしの中で実感が持てるような人生を送るべきだと思うのです。この世界で働くひとりひとりが、大切な一冊や思い出を胸に抱いて毎日を過ごすこと。これこそが現代において福祉事業に携わる私たちが持つべき心構えの一つだと思っています。

ただ、誤解をして欲しくないのは自分の幸福のためだけに生きていきなさい、という意味ではありません。職員の生活保障や身分保障をするために障害のある方々が存在するわけではありません。そのことは履き違えないようにして欲しいものです。

この事を語るときに私が良く使う一文があります。それは、当法人の大島誠理事長が「みんなできるとして」のホームページに寄せたトップメッセージです。

人間は一人の例外もなく、やがて高齢者や障害者となります。私たちはこの事実と社会福祉の本旨に基づいて、総ての人が有する「年齢・性別・国籍・心身と社会的な健康状態・現在の能力の如何に関わらず、最高の自分を表現しながら生きる権利」を尊重し、世代と環境の違いを超えて、お互いが支え合い、誰もが自分らしく生きる持続可能な社会の実現を目指し、まさに未来の自分に奉仕するがごとく社会に奉仕したいと考えています。(www.minna-de-ikiru.org/about.php)

「みんなできるとして」という組織は、まさにその人の待つ可能性や魅力を最大限に発揮することを支える集団なのです。我々は、これまでの福祉のカテゴリーの中で障害を抱えたり、加齢に伴って介護が必要になった人々のことを「可哀想な福祉の対象者」と捉えるのではなく、このメッセージにあるような価値観をこの社会に向けていくことが仕事なのです。そのためにはタイトルに私が込めたように、福祉の現場で働く皆さんには「幸せに生きる義務」があるのだと思っています。

この夏「みんなできるとして」では7月6日～31日にかけて、あすとびあ高田ミュージアムにて「アール・ブリュット展 in 上越」を開催いたします。「アール・ブリュット」とは既存のカテゴリーやモードにとらわれない、専門的な芸術教育を受けていない「生の芸術」とされる分野の造形・表現活動の総称です。これらの作品を生み出す方々の中に重い知的障害や自閉症の方々、精神科病院に長期で入院されている方が多いので「アール・ブリュット＝障害者芸術」と認識されてしまうことも多いのですが、そうではなく、あくまでその作品の独創性や魅力に伴う芸術的な評価を受けている作品群を指します。

なぜ「みんなできるとして」がこうした取り組みを行うかといえば「年齢・性別・国籍・心身と社会的な健康状態・現在の能力の如何に関わらず、最高の自分を表現しながら生きる権利を尊重」することを社会にきちんと宣言したいからです。現場の支援だけを通じてそのことを発信するには限界があります。我々がこの取り組みを行うことで、障害のある方々の存在にきちんと光が当たり、この社会が彼らの魅力やその存在の価値に触れる瞬間を作る必要があるのです。

幸運なことに私はここ数年、「アール・ブリュット」の世界にそれなりに関わってきました。福祉系大学の卒業ですから芸術的な知識は皆無です。ですが「アール・ブリュット」の世界に関わったおかげで業界のこともずいぶん勉強しましたし、美術館にもずいぶん足を運びました。世界的な巨匠の中にも障害を抱えていたであろう作家が数多くいたことも分かりました。そして抱える障害による葛藤がその表現や造形に大きな影響を及ぼしていたことも分かりました。全く別の世界のことでそれが自分の仕事にとっても大きな影響を与え、豊かにしてくれる体験を何度かしました。この分野の事を知らずに福祉の仕事に関わるのとそうでいなのとはその向き合い方や仕事に面白さを感じる角度がかなり違ったものになったのだろうと思います。そういう意味では私は今、とても幸せな状態でこの世界に存在していることになりました。

この仕事の楽しさも、辛さも、厳しさも、奥行きも全て障害のある方々が教えてくれます。日々の現場の中に喜びを見つけることもたくさんあります。ですが、福祉という仕事の本当の魅力や面白さを知るには、私たちは「自分が幸せになる」努力が必要です。丸田明久さん(りとるの家はなれ所長)は「お金でも時間でもいい。自分のためにその5%を投資しなさい」と語ります。それは自分が幸福に生きるために必要な条件のようにも思います。

幸せを願う気持ちは全ての人を持ち合わせる当たり前の感情ですが、時々はその形や有り様を考える時間を持って欲しいと願っています。それこそが、この世界を豊かに広げるための一つの解ではないかと、この春に40歳という中年の仲間入りをした自分の思いなのです。